

# 第1回「農村ボランティア研修会」を開催しました！

# ふるさと交流だより

活動を続けようとするの難なり  
活発に意見交換が出来ました

一月二十一日（日）十八年度の第一回農村ボランティア研修会をボランティア会員三十五名の参加のもとに開催しました。

## 第一部

- ① 田和地区ボランティア代表の西村欣也氏による「ボランティアの支援活動状況」
  - ② 受け入れ側として辻集落代表の青野賢治氏による「ボランティア活動と集落の活性化」
  - ③ 高柳地区で活動されている河野正和氏による提言を交えた事例報告を頂きました。
- それぞれ現状における問題点等について報告と提言があり、今後のボラン

ティア活動を進める上でおいに参考になりました。

## 第二部

農村環境課の桑原主任の進行で「農村ボランティア活動を継続させるためにはどうすれば良いか」をテーマに四班に分かれワークショップを行いました。以下の様な意見が出ました。  
**A班**「行政側から或いは農作物を売った収入等から交通費を負担して貰えな



いか」「宿泊所の確保」「連絡用ネットワークの構築」「日曜以外の活動日も」  
**B班**「環境教育とタイアップし子どもの教育に生かせるような活動が出来ないか」「ボランティア間の交流がない」「メニューの多様化と作業に変化がほしい」「宿泊施設の整備」

**C班**「集落の要望がわからない」「地元足並みがそろっていない」「休憩所の整備」等地元に対する要望や、ボランティア側の問題として「イベントの時しか出てこない人が多い」、続けていくコツは「お互い遠慮しないこと」「最初のきっかけづくりが大事」「ボランティア側もリーダーが必要」

**D班**「若い人に対するきっかけづくりが大切」「連絡網の確立」「経費の補助」  
「思いを伝えて分かり合える工夫をする」  
皆さん熱心で、意見交換がたくさんできました。課題は交流が進み、お互い理解できたら解消されるものもあるのではないかとという結論になりました。今後の活動に活かしていきたいと思えます。研修会後の懇親会もおおいに盛り上がり、有意義な研修会でした。

ふるさとむら平木でそば打ち

今年の十二月二十三日、平木のふるさとむら会員三十数名が平木公民館に集まり、そば打ちと試食を体験しました。

平木集落は西国三十三カ所の二十五番札所の清水寺の麓にあり平成十一年に有志により「平木そばを作る会」を発足させ、年々作付け面積も増やし定着してきています。



ソバ作りで一番大変なのは刈

り取りで、十一月十一日にはボランティア約三十名が参加しそば刈を手伝いました。



当日は、地元のそば打ち名人の指導のもと、悪戦苦闘しながらも何とかそばが出来あがり、太いのやら、硬いのやらいろいろありましたが、そば打ちと試食を美味しくいただき楽しい一日を過ごしました。来年も実施予定です。

棚田交流人、ふるさとむらの活動の評価と問題点

「棚田交流人」「ふるさとむら」の活動は、ともに5年以上経過しました。今後の活動の参考にするため、61集落について現在の活動状況、問題点を1月末現在で調査しました。要旨は以下のとおりです。

1 活動の評価と問題点

- ① 活動に対する集落の評価は★労働力としての評価が高い(42%)、★集落の意識改革やまとまり等交流の成果を評価するものも多い(25%)
- ② 問題点としては、★受入の準備が大変(34%)、★活動回数が少ない(25%) ★集落のメリットがあまり無い(18%)などの意見があった。
- ③ 今後の活動については★継続していく地区は80%と多かったが、活動休止中が20%もあり、今後の対策が課題。

2 この活動を活性化していくために

- ① 集落から会員への要望として★活動の継続(44%)、★会員同士の連絡窓口の整備(24%)、★集落への定住(14%)、★農産物の購入(11%)
- ② 集落から実施主体に対する要望として★全地区の会員と集落との情報交換の場の設定、★継続して安定的に参加する会員の募集(22%)、活動経費の助成(42%)

などの意見が出ましたが、これらの意見を参考にさせていただき、今後の活動につなげていきたいと思っております。

【事務局からのお知らせ】

食と農を楽しむ楽農生活の実践拠点となる「兵庫楽農生活センター」が、神戸市西区神出町小東野にオープンしました。土日祝(十時〜十五時)は地元産の新鮮な野菜とそれらを使った加工品の直売などを行っています。楽農レストラン「かんでかんで」でも新鮮野菜を楽しめます。ぜひ足をお運びください。(水曜日休園)